

特別委員会報告

ILC調査特別委員会

12月16日の委員会では、いわてILC加速器科学推進会議の亀卦川富夫代表幹事から「ILC誘致に係る最近の情勢、当奥州市議会に対する要望等」についてお話をいただきました。

ILCが日本に立地するかどうかは未定ですが、決定することを前提に物事を進めていただきたい。現在国としてもILC誘致に向けた調査費を計上するなど

積極的に動いていることから、期待できるものと思います。現在策定中の奥州市



いわてILC加速器科学推進会議 亀卦川富夫代表幹事

ILCまちづくりビジョンの完成予定が来年にずれ込む見込みですが、いいものになりたいの思いで作業を進めているとのことでした。

議会に対しては、一関市をはじめ県内市町村と歩調を合わせて活動を進めていくこと、国会議員への要望・地域の方々への働きかけ等を期待したいとお話をいただきました。様々な機関・団体が一緒になって意見交換をしながら進んでいくという動きのすべてが誘致運動になるという考え方で活動していくことを確認しました。

地域医療調査特別委員会

当委員会は、地域医療の充実に向け奥州市の医療体制における極めて重要な喫緊の課題等について調査検討するため、平成26年9月26日に設置しました。

以来、担当部課長から「医療と介護

の連携」や「医師確保対策」など、様々な取組みの説明を受けました。また、県南広域振興局保健福祉部長等からは、県における保健、医療、介護のサービス提供体制を図るための総合的な計画内容や地域医療保健対策の推進状況について説明を受けました。今年度は奥州市立の病院長及び診療所長、県立胆沢病院長、民間病院の代表者等から、医師確保の問題や今後の地域医療連携の考え方、在宅ケアと緩和ケアの必要性などのお話を伺いました。

これまでの調査活動を総括し提言としてまとめ、行政、議会、関係機関が市民とともに英知を結集し、連携していくことの必要性を確認したことから、当特別委員会としての所期の目的を達成したものと判断し調査を終了することといたしました。



総合水沢病院 半井院長との懇談

奥州万年の森特別委員会

10月20日の委員会では、調査方針等の決定など迅速性及び機動性を図る目的で幹事9名を選任しました。調査すべき事項を3つに分類すること、当該事業に関わる本会議や全員協議会の会議録を準備すること、また法的な裏付けを明確にするため助言弁護士を選任することなど、当面取り組むべき課題について協議しました。

12月2日の委員会では、当特別委員会運営要領を策定しました。

12月18日の委員会では、調査権限の追加と調査経費の増額について追加申出すること、また非開示資料の記録について資料請求を行なうことを決定しました。



調査を進める奥州万年の森調査特別委員会